



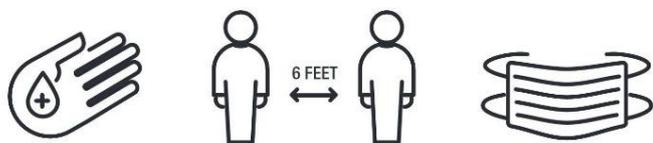
時事寸考

シーダ・ウォーク施設長・医師の吉田です。アメリカ大統領選挙は終わりましたが、当初マスクなんかつけないといっていたトランプ氏も後半はマスクをつけていました。結局選挙には負けましたが、アメリカにおけるCOVID-19はかなり悲惨な状況です。12/20現在のCOVID-19感染者と死亡者数は以下のとおりです。(CSSE-JHUによる)

国名	感染者数	死亡者数
アメリカ合衆国	17,819,586	317,588
インド	10,031,223	145,477
ブラジル	7,238,600	186,764
ロシア	2,821,125	50,242
イギリス	2,046,161	67,503
日本	199,239	2,778
全世界	76,750,811	1,692,067

アメリカの人口は日本の約2.5倍ですが、これを考慮しても感染者数、死者数ともアメリカの方が40倍程度になります。日本でもすでに医療状況はかなり逼迫していますが、アメリカの現状は極めて厳しいでしょうね、ただでさえ医学は優れているが医療はダメという国ですから。ワクチン接種を開始しましたが当分は下記を守るということのようです(これは日本と同じですね、6フィート≒180cm)

(UTMBより)



栄養科より今月の一押しメニュー



元旦には黒豆・伊達巻など「おせち盛り合わせ」、2日は「鯛ごはん」「宝蒸し」「栗きんとん」、3日は「ちらし寿司」にイクラを添えてご用意する予定です。お料理でお正月をお楽しみいただければと思います。また、1月7日の朝食は七草粥をご用意します。これからも季節感を大切にしながら栄養バランスのよい食事を皆様にお届けしたいと思います。食は健康の源です。しっかり食事を取り元気にお過ごしください！！

Cedar Walker 法律相談

納得のいく老い支度を ~任意後見契約のすすめ~

2025年には65歳以上の約5人に1人が認知症を患うと言われております。認知症で判断能力が低下した場合には、ご自分の財産をどうやって管理するかが問題となってきます。例えば、預金を引き出して生活費や病院代の支払をしたり、介護サービスの契約をすることが難しくなってきます。そのような判断能力が低下した場合にあらかじめ備えておく制度として、任意後見契約というものがあります。任意後見契約の特徴は、元気なうちから、将来判断能力が低下した場合に備えて、信頼できる人に、将来の代理権を与えておくという契約です。代理権の効力が発生するのは、将来、認知症を患ったときなど、自分で財産の管理するのが難しくなったときからです。元気なうちから、認知症を患ったときに諸々のサポートをしてくれる人を、予約しておくイメージです。



与える代理権の範囲は自由にカスタマイズできます。そのため、将来に認知症を患ったときの生活の方針を、前もって自分で決めておくことができます。例えば、家賃・公共料金・各種施設の費用の支払、生活費の送金や日用品の購入、預貯金の管理といったものを任せるだけでなく、不動産の管理や売却、年金や家賃などの定期的な収入の受領を任せることもできます。また、介護契約や施設入所契約などの福祉サービスの利用契約や、入院したときなどの医療の契約も任せておくと、認知症を患ったときでも安心して生活を送ることができます。

任意後見契約の契約書は、公証役場で作成する必要があります。任意後見契約に関心のある方は、弁護士や公証役場にご相談されることをおすすめします。

桜丘法律事務所 弁護士 小堀 惇

(電話)03-3780-0991 (WEB)<http://www.sakuragaoka.gr.jp>

介護老人保健施設 シーダ・ウォーク  
〒167-0034 東京都杉並区桃井3-4-9  
TEL.03-5311-6262(代) FAX.03-5311-6180  
<https://kawakita.or.jp/suginami-area/cedar/>  
2020年12月25日発行 vol.162 編集:浜江・常盤・安倍・村松・高嶋・石川





# 「口から食べる喜び」を支えます

## 経口維持加算とは

ご利用者の皆さまが口から食べる楽しみを長く続けられるように、多職種協働で支援することを目的とした加算です。

シーダ・ウォークでは、飲み込みに課題のあるご利用者に向けて、多職種(医師・看護師・管理栄養士・言語聴覚士・理学療法士・作業療法士・介護福祉士等)が協働してご利用者の食事を観察、会議を行い、経口維持計画を作成・実施し、ご家族に報告した上で「経口維持加算(Ⅱ)」を算定しています。



多職種で食事の様子を観察し、より良い方法を検討します。

## 口から食べることが大切な理由

「口から食べる」ことは栄養を摂ること以外にも、たくさんのメリットがあります。

- ① 口を使うことで、感覚機能(視覚・嗅覚・触覚・味覚・聴覚)に刺激を与え、脳を活性化させます。
- ② 唾液の分泌を促し、食べ物の飲み込みや消化を助けます。また口腔内の自浄作用を働かせて免疫力の向上も期待できます。

姿勢の改善のために背中にクッションを入れました。



- ③ 食べるという動作によって目と手と口(咀嚼)が連動してそれぞれの機能を向上させ、脳への刺激や全身の筋力へのリハビリテーション効果が期待できます。
- ④ 口から食べる(味わう)ことで、季節を感じたり、懐かしい味を思い出したり、精神的かつ社会的な側面ももち合わせています。
- ⑤ 食事を通して周囲の人との間にコミュニケーションが生まれやすくなります。

口から食べることでの満足感や充実感を得ることで QOL(生活の質)も向上します。



飲み込みに課題のあるご利用者が、誤嚥をしないで安全においしく食事を続けられるように、多職種で話し合い、食事の形態や、姿勢、食器などの食事環境の調節をします。

### 管理栄養士より

口から食べる楽しみは何よりも生きる源、元気の源となります。口から食べる喜びを長く続けられるよう支援していきます。

### 言語聴覚士(ST)より

## シーダ・ウォーク ミニ ニュース

### 家族介護教室に講師として参加しました



9月24日にケア24上荻が主催する家族介護教室に、シーダの支援相談員が講師として参加しました。内容は「いざという時に困らない施設の選び方～介護施設の種類と費用～」。家族介護教室の中でも人気の高いテーマです。参加者の方からは「将来の参考になった」という声をいただきました。